

Syllabus (授業計画) 用紙

科目名	アカデミックリテラシー			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	前期	単位数	2単位
担当者氏名	名古屋功	実務経験の内容	—		
実務経験のある教員による授業科目 (○/ー)	—				

講義概要

講義概要	本講義では、アカデミックリテラシーを「自律的な学びに必要な能力」として位置づけ、生涯にわたり自らの能力やスキルを高めるための具体的な学修方法について、理解することを目的とする。具体的には、論理的思考力、情報収集および活用方法、論理的文章の書き方と理解、プレゼンテーション、議論の組み立て方やグループディスカッション手法などについて学び、自学自習を可能にする基礎能力を身に付ける。			
到達目標	大学において学ぶ上で求められる学問的な読み書き話す能力を身につける。			
講義方法	講義			
授業時間外における予・復習等の指示	講義出席後、ノートを参照し内容や疑問点を整理の上、次回の講義に備えること。			
成績評価の方法	平常点 (主体的な授業参加度) (50%)、小テスト (50%)			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	必要に応じて、講義資料と関連資料 (新聞雑誌記事等) を配付する。またテキストは講義前に指定する。		—	—
履修上の注意	今後勉学を進めていく上での基礎となる科目であり、受け身ではなく興味関心と積極性を持って取り組むこと。			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	名古屋功	ガイダンス、アカデミック・リテラシーの考え方と必要性	—
2	同上	レポート、論文の構成と書き方：文章化の基本	—
3	同上	論理的文章表現(1)：構想とテーマの絞り込み	—
4	同上	論理的文章表現(2)：資料の種類と検索方法	—
5	同上	論理的文章表現(3)：主張と根拠づけの手法	—
6	同上	論理的文章表現(4)：論文、レポートの論理構造と文章化の実際	—
7	同上	図書館活用術：図書館データベースの使い方	—
8	同上	資料読解方法、資料整理法：資料の収集と体系的整理	—
9	同上	資料引用の仕方、出典の表示方法：引用と剽窃の違い	—
10	同上	ディベートによる論理的思考力の強化(1)：ディベートの事前準備・テーマ設定	—
11	同上	ディベートによる論理的思考力の強化(2)：ディベートの展開方法 (反駁、質疑、立論)	—
12	同上	ディベートによる論理的思考力の強化(3)：ディベートの実際、グループ発表	—
13	同上	論理的なプレゼンテーション(1)表示、図形表現の手法	—
14	同上	論理的なプレゼンテーション(2)構成の仕方	—
15	同上	論理的なプレゼンテーション(3)結論の導き方	—

Syllabus (授業計画) 用紙

科目名	キャリアデザイン			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	前期	単位数	2単位
担当者氏名	矢部 敏明	実務経験の内容	本科目の担当教員は、大手出版社と人材サービス会社にて、新卒者・若年層の就労支援事業に携わり、人材教育に関する研修や教材開発の実績を有している。本科目では、これらの実務経験を活かして、キャリアデザインについて実践的な解説を行う。		
実務経験のある教員による授業科目 (○/ー)	○				

講義概要

講義概要	そもそも「キャリア」「キャリアデザイン」とは何かから始め、自分の関心分野の掘り起こし、自分の将来の姿「どんな生き方をしたいか」「どんな仕事をしていきたいか」を探究していく。日本は有史以来の人口減少時代を迎えており、少子高齢化、情報化、グローバル化など社会環境は複雑かつ加速度的に変化し続けている。その中で、「自分の将来の方向性」をイメージしていくことはとても重要なことである。もちろん、時間とともに方向性は変わっていくため「これが正解である」ということは言えないが、近い将来、社会人になってからもキャリアデザインを考え続けていくことができるような方法を提示していく。また、どんな方向性でも社会人として必要な知識やコミュニケーション能力を個人ワークとグループワークを組み合わせ、授業を行う。			
到達目標	一人ひとりが自己のキャリアを永続的な課題として捉え、試行錯誤しながら自分で考え行動していく探求心を身につける。			
講義方法	各回のテーマについて講義と個人ワーク、グループワーク（ディスカッション・発表）などを行う。			
授業時間外における予・復習等の指示	適宜、参考資料を指示。 個人・グループメンバーとして必要な事前準備（情報収集・整理、議論）と事後学習（レポート作成）を行うこと。			
成績評価の方法	平常点（主体的な授業参加度）（20%）、演習・レポート（40%）、定期試験（40%）			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	1.スタンフォード式人生デザイン講座 2.LIFE SIFT（ライフ・シフト）100年時代の人生戦略	ハヤカワ文庫NF 東洋経済新報社	800円 1,800円	978-4150505462 978-4492533877
履修上の注意	必要に応じてプリントを配布するのでファイルングして管理すること。			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	矢部 敏明	キャリアとは何か、キャリアデザインとは何か、働く意味とは何かについて考える。	イントロダクション・ガイダンスを含む。
2	同上	学生生活とキャリア形成 専門職大学時代をどう過ごすか、フードサービス分野の経営能力を持つプロフェSSIONALについて考える。	講義の区切りにおいて小テストを行う場合がある。
3	同上	人生100年時代にいきいきと社会で活躍し続けるために必要な能力を考える。	同上
4	同上	キャリア・デザイン（1） 社員の働き方や副業について	同上
5	同上	キャリア・デザイン（2） 経営者という生き方～起業家、フリーランスについて	同上
6	同上	キャリア・デザイン（3） ワークライフバランスとは	同上
7	同上	ダイバーシティから考える社会（組織）と自分の在り方	同上
8	同上	キャリアに関する諸理論（1）	同上
9	同上	キャリアに関する諸理論（2）	同上
10	同上	自己成長と成功・失敗経験との関係性 （「成長」を自らの言葉で定義してみる）	同上
11	同上	自己成長とライフサイクルの哲学	同上
12	同上	自分の行動特性・思考特性を知る。	同上
13	同上	マネジメント・リーダーシップ・フォロワーシップ	同上
14	同上	キャリアを切り拓くために必要な要素・方法について、グループで議論し、発表する。	同上
15	同上	振り返りと目標設定 自分がどんな価値を創造し提供できるかを発表する。	同上

Syllabus (授業計画) 用紙

科目名	統計基礎			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	前期	単位数	2単位
担当者氏名	藪下 保弘	実務経験の内容	—		
実務経験のある教員による授業科目 (○/ー)	—				

講義概要

講義概要	私たちの日々の生活やビジネス等あらゆる場面において、様々なデータがあふれている。膨大なデータから、どのデータを選択・収集し、どのような形として活用するかによって、データのもつ意味は大きく変化する。得られたデータを効率よく適切に処理するためには、「統計」が必要であり、データ分析が重要となる。 本講義では、日常生活の中であふれる情報（データ）を能動的に収集し、分析することで、データを実務やアカデミックな研究に生かす方法について学ぶ。まず、確率や初等統計の基礎から学び、統計データを適切に処理できるようになることを目指す。また、得られた結果を正確に理解し、解釈できるように必要な知識を身につける。			
到達目標	統計の基礎と共に、あらゆる経営分析などに使われていることを理解し、そのマインドを身につける。			
講義方法	統計学を基礎的なテキストで講義する。特に、統計データの収集・分析・処理方法までを踏まえて講義する。			
授業時間外における予・復習等の指示	世の中で使われる統計を常に考えること。授業の事前には、興味を持つため、言葉についてネット等で調べておくこと。事後には、その日に学んだ内容を自分なりに1枚にまとめ、授業内の課題とする。			
成績評価の方法	平常点（課題提出）（50%）、レポート（50%）			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	統計学入門（基礎統計学Ⅰ）	東京大学出版会	3,024円	978-4130420655
履修上の注意	—			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	藪下 保弘	統計とは何か（概論）	オリエンテーションを含む。
2	同上	1次元のデータ（量的データと質的データ、平均・中央値など）	授業最後に課題提出する。
3	同上	2次元のデータ記述と確率の基礎（集合・事象）	同上
4	同上	確率論（確率・条件付き確率、ベイズの定理など）	同上
5	同上	確率変数・確率分布（確率変数・期待値・分散など）	同上
6	同上	確率変数・確率分布（二項分布など）	同上
7	同上	クロス集計表・散布図、相関係数、多次元の確率分布	同上
8	同上	母集団と標本、標本分布（サンプル調査など）	同上
9	同上	標本平均と標本分散の性質、大数の法則と中心極限定理	同上
10	同上	連続型の確率分布（正規分布からの標本）	同上
11	同上	推定（母平均・母比率の推定）、仮説検定	同上
12	同上	回帰分析と多変量解析（一部）	同上
13	同上	統計を使う経営分析～消費者行動のデータ分析（マーケティング）など	同上
14	同上	統計データの収集・分析・処理方法（概論）	同上
15	同上	これまでの統計基礎のまとめと発展的な話題	統計基礎（論述式）のまとめのレポート提出をする。

Syllabus（授業計画）用紙

科目名	情報リテラシーⅠ			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	前期	単位数	2単位
担当者氏名	荒牧 裕一	実務経験の内容	本科目の担当教員は、SE経験を経て、企業内での情報セキュリティやネットワークに関する講師を務め、大学教員として学生の情報セキュリティ指導などの実績を有している。本科目では、これらの実務経験を活かして、情報リテラシーについて実践的な解説等を行う。		
実務経験のある教員による授業科目（○/ー）	○				

講義概要				
講義概要	現代社会では、第4次産業革命の大きな波が押し寄せてきている。そのなかで、ITに関する基礎知識は店舗マネジャーにとって重要である。本授業では、情報化社会におけるルールやモラルを身につけるとともに、情報セキュリティの基本を学んだ上で、ビジネスにとって必要なスキルを身につけ、マネジメント力・発想力をITを用いて活用できるようにする。また、電子メールやウェブページなど、それらを使用するための基本的な操作方法も含め演習を通して学ぶ。			
到達目標	情報化社会におけるルールやモラルを身につけるとともに、情報セキュリティの基本を学んだ上で、ビジネスに必要な基本的IT能力を身につけることを目標とする。			
講義方法	演習			
授業時間外における予・復習等の指示	適宜、参考資料を指示する。課題は期日まで提出すること。			
成績評価の方法	平常点（主体的な授業参加度）（20%）、実演・レポート（50%）、定期試験（30%）			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	情報リテラシー	FOM出版	2,200円	978-4-86510-415-8
履修上の注意	連絡に電子メールを用いることがある。			

講義計画				
NO	担当者	学修内容	備考	
1	荒牧 裕一	学ぶ内容、学び方、および成績評価について。	ガイダンスを含む。	
2	同上	わたしたちをとりまくデジタル化社会	—	
3	同上	情報化社会のモラルとセキュリティ 情報モラルとは、情報セキュリティ対策はなぜ必要か	—	
4	同上	個人情報の適切な取り扱い 個人情報を守るには、他人の個人情報を守ることの重要性、写真やWebでの公開	—	
5	同上	デジタルトランスフォーメーション（DX）	—	
6	同上	第4次産業革命、Society5.0	—	
7	同上	業務分析の代表的手法1、パレート図他	—	
8	同上	業務分析の代表的手法2、ABC分析他	—	
9	同上	業務分析の代表的手法3、特性要因図他	—	
10	同上	PERT（アローダイヤグラム）、クリティカルパス	—	
11	同上	図表グラフによるデータ可視化1、散布図他	—	
12	同上	図表グラフによるデータ可視化2、レーダーチャート他	—	
13	同上	図表グラフによるデータ可視化3、ヒートマップ他	—	
14	同上	多次元の可視化について	—	
15	同上	リアルタイム可視化他	—	

NO	担当者	学修内容	備考
16	荒牧 裕一	デジタル時代の著作権 著作権とは、引用はどこまで許されるか、TV番組や書籍のデジタルデータ化は許されるか	—
17	同上	ネット社会に潜む危険と対策 ウイルスについて、パスワード、ネットショッピング、ネットオークション	—
18	同上	メールによるコミュニケーション 悪意のメール、相手のことを考えたメール	—
19	同上	Webによるコミュニケーション 情報の信憑性、SNSでの情報発信、インスタ映え、クラウドの利用	—
20	同上	モバイル機器の活用と管理 カメラ機能、アプリの活用、スマートフォン	—
21	同上	各OSによる違いと特徴 (Windows, iOS, Linux他)	—
22	同上	スマートフォン、タブレットとの連動	—
23	同上	各OSのメンテナンスと保守管理	—
24	同上	デスクトップとファインダー Finder操作、Dock操作	—
25	同上	代表的アプリケーションの操作方法	—
26	同上	ファイル管理、ディレクトリー操作他	—
27	同上	クラウドサービスとデータ管理	—
28	同上	利用者満足度、費用対効果分析他	—
29	同上	総合演習 (1)	まとめを兼ねる。
30	同上	総合演習 (2)	まとめを兼ねる。

Syllabus (授業計画) 用紙

科目名	英語 I			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	前期	単位数	2単位
担当者氏名	Gerald Knoke	実務経験の内容	—		
実務経験のある教員による授業科目 (○/×)	—				

講義概要

講義概要	<p>This course will help students acquire and develop English vocabulary and grammatical structures that will enable them to successfully communicate. Students will improve their conversation and speaking skills, listening and reading comprehension, pronunciation, oral reading, and writing abilities at a steady pace.</p> <p>Lessons will be structured around Pearson's Side by Side textbook. Supplementary materials, activities, assignments, and exercises will be given according to the needs of the students. Lessons will focus on everyday situations through which students will learn grammar, vocabulary, and communication strategies necessary to carry on conversations in the present tense.</p> <p>The goal of this course is for students to acquire a firm foundation and working knowledge of English that they can further build upon. As such, the lesson plan below is fluid and may be adjusted according to the needs and learning-pace of the students.</p>			
到達目標	<p>(1) Learn communication strategies, respond well, ask questions, and converse without hesitation in different situations.</p> <p>(2) Learn to read aloud with confidence, gain listening skills, and learn pronunciation.</p> <p>(3) Learn vocabulary, expressions, and grammatical structures that are used in everyday English.</p> <p>(4) Gain a greater Interest in and understanding of different cultures.</p>			
講義方法	Classes will be conducted in an active learning format.			
授業時間外における予・復習等の指示	Instructions will be given as appropriate. Homework and assignments will be given on a regular basis. Students will be expected to complete certain assignments and the exercises in the Student Workbook as homework, outside of class (answers will, in general, be reviewed in class). Students who are failing tests and struggling to keep up in class may be given extra assignments and required to do extra study and practice outside of class.			
成績評価の方法	Active Participation 20%, Assignments and Homework 20%, Chapter Tests 30%, Final Exam 30%			
テキスト	書名	出版社名	定価	ISBN
	「Side by side」 student textbook 1A	Miyoshi	2,612円	9780132460064
履修上の注意	Use email to contact			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	Gerald Knoke	Chapter 1 To Be: Introductions Personal Information Meeting People	Including guidance
2	同上	Chapter 2 To Be + Location Subject Pronouns Classroom Object Rooms in the Home	〃
3	同上	Chapter 2 To Be + Location Subject Pronouns Cities and Nationalities Places Around Town	
4	同上	Chapter 3 Present Continuous Tense Everyday Activities Subject Pronouns	
5	同上	Chapter 3 Present Continuous Tense Everyday Activities Subject Pronouns	
6	同上	Chapter 3 Present Continuous Tense Side by Side Gazette	
7	同上	Chapter 3 Test	
8	同上	Chapter 4 Short Answers Possessive Adjectives Everyday Activities	

講義計画			
NO	担当者	学修内容	備考
9	Gerald Knoke	Chapter 4 To Be: Short Answers Possessive Adjectives Everyday Activities	
10	同上	Chapter 4 To Be: Short Answers Possessive Adjectives Everyday Activities	
11	同上	Chapter 4 Test	
12	同上	Chapter 5 To Be: Yes/No Questions Short Answers Adjectives Possessive Nouns Describing People and Things	
13	同上	Chapter 5 To Be: Yes/No Questions Short Answers Adjectives Possessive Nouns Describing People and Things Weather	
14	同上	Chapter 5 To Be: Yes/No Questions Short Answers Adjectives Possessive Nouns Describing People and Things Weather	
15	同上	Chapter 5 Test	
16	同上	Chapter 6 To Be:Review Present Continuous Tense: Review Prepositions of Location Family Members	
17	同上	Chapter 6 To Be:Review Present Continuous Tense: Review Prepositions of Location Family Members	
18	同上	Chapter 6 To Be:Review Present Continuous Tense: Review Prepositions of Location Family Members Describing Activities and Events Side By Side Gazette	
19	同上	Chapter 6 Test	
20	同上	Chapter 7 Prepositions There is/ There Are Singular/ Plural: Introduction	
21	同上	Chapter 7 Prepositions There is/ There Are Singular/ Plural: Introduction Places Around Town Locating Places	

講義計画
学修内容

NO	担当者	学修内容	備考
22	Gerald Knoke	Chapter 7 Prepositions There is/ There Are Singular/ Plural: Introduction Places Around Town Locating Places Describing Neighborhoods Describing Apartments	
23	同上	Chapter 7 Prepositions There is/ There Are Singular/ Plural: Introduction Places Around Town Locating Places Describing Neighborhoods Describing Apartments	
24	同上	Chapter 7 Test	
25	同上	Chapter 8 Singular/Plural Adjectives Clothing Looking For Clothing This/That/These/Those	
26	同上	Chapter 8 Singular/Plural Adjectives Looking for Clothing This/That/These/Those Shopping For Clothing	
27	同上	Chapter 8 Singular/Plural Adjectives Looking for Clothing This/That/These/Those Shopping For Clothing Side By Side Gazette	
28	同上	Chapter 8 Test	
29	同上	English 1 Review	
30	同上	English 1 Review	

Syllabus (授業計画) 用紙

科目名	英語 II			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	後期	単位数	2単位
担当者氏名	Gerald Knoke	実務経験の内容	—		
実務経験のある教員による授業科目 (○/×)	—				

講義概要				
講義概要	<p>This course will build on the English skills acquired in English I and allow students to further develop English vocabulary and grammatical structures that will enable them to successfully communicate. Students will improve their conversation and speaking skills, listening and reading comprehension, pronunciation, oral reading, and writing abilities at a steady pace.</p> <p>Lessons will be structured around Pearson's Side by Side textbook. Supplementary materials, activities, assignments, and exercises will be given according to the needs of the students. Lessons will focus on everyday situations through which students will learn grammar, vocabulary, and communication strategies necessary to carry on conversations regarding the past, present, and future.</p> <p>The goal of this course is not for students to finish all the pages of the textbook, but, rather, to acquire a firm foundation and working knowledge of English that they can implement outside of the classroom and further build upon. As such, the lesson plan below is fluid and may be adjusted according to the needs and learning-pace of the students.</p>			
到達目標	<p>(1) Learn communication strategies, respond well, ask questions, and converse without hesitation in different situations.</p> <p>(2) Learn to read aloud with confidence, gain listening skills, and learn pronunciation.</p> <p>(3) Learn vocabulary, expressions, and grammatical structures that are used in everyday English.</p> <p>(4) Gain a greater interest in and understanding of different cultures.</p>			
講義方法	Classes will be conducted in an active learning format.			
授業時間外における予・復習等の指示	Instructions will be given as appropriate. Homework and assignments will be given on a regular basis. Students will be expected to complete certain assignments and the exercises in the Student Workbook as homework, outside of class (answers will, in general, be reviewed in class). Students who are failing tests and struggling to keep up in class may be given extra assignments and required to do extra study and practice outside of class			
成績評価の方法	Active Participation 20%, Assignments and Homework 20%, Chapter Tests 30%, Final Exam 30%			
テキスト	書名	出版社名	定価	ISBN
	「Side by side」 student textbook 1B	Miyoshi	2,612円	9780132459723
履修上の注意	Use email to contact			

講義計画				
NO	担当者	学修内容	備考	
1	Gerald Knoke	Chapter 9 Simple Present Tense Languages and Nationalities Everyday Activities	Including guidance	
2	同上	Chapter 9 Simple Present Tense Languages and Nationalities Everyday Activities	”	
3	同上	Chapter 10 Introduction Simple Present tense: Yes/No Questions Negatives		
4	同上	Chapter 10 Simple Present tense: Yes/No Questions Negatives Short Answers Habitual Actions People's Interests and Activities		
5	同上	Chapter 10 Simple Present tense: Yes/No Questions Negatives Short Answers Habitual Actions People's Interests and Activities		

講義計画			
NO	担当者	学修内容	備考
6	Gerald Knoke	Chapter 10 Simple Present tense: Yes/No Questions Negatives Short Answers Habitual Actions People's Interests and Activities Side by Side Gazette	
7	同上	Chapter 9, 10 Test	
8	同上	Chapter 11 Object Pronouns Simple Present tense: -s vs.non-s Endings Have/Has Adverbs of Frequency Describing Frequency of Actions Describing People	
9	同上	Chapter 11 Object Pronouns Simple Present tense: -s vs.non-s Endings Have/Has Adverbs of Frequency Describing Frequency of Actions Describing People	
10	同上	Chapter 11 Test Chapter 12 Contrast: Simple Present and Present Continuous Tenses Adjectives Feelings and Emotions	
11	同上	Chapter 12 Contrast: Simple Present and Present Continuous Tenses Adjectives Feelings and Emotions Describing Usual and Unusual Activities	
12	同上	Chapter 12 Contrast: Simple Present and Present Continuous Tenses Adjectives Feelings and Emotions Describing Usual and Unusual Activities	
13	同上	Chapter 12 Contrast: Simple Present and Present Continuous Tenses Adjectives Feelings and Emotions Describing Usual and Unusual Activities	
14	同上	Chapter 12 Contrast: Simple Present and Present Continuous Tenses Adjectives Feelings and Emotions Describing Usual and Unusual Activities Side by Side Gazette	
15	同上	Chapter 12 Test Chapter 13 Can Have to	

講義計画			
NO	担当者	学修内容	備考
16	Gerald Knoke	Chapter 13 Can Have to Expressing Ability Occupations Looking for a Job Expressing Obligation Invitations	
17	同上	Chapter 13 Can Have to Expressing Ability Occupations Looking for a Job Expressing Obligation Invitations	
18	同上	Chapter 13 Can Have to Expressing Ability Occupations Looking for a Job Expressing Obligation Invitations	
19	同上	Chapter 13 Test Chapter 14 Future: Going to Time Expressions Want to	
20	同上	Chapter 14 Future: Going to Time Expressions Want to Describing Future plans and Intentions Expressing Wants Weather Forecasts	
21	同上	Chapter 14 Future: Going to Time Expressions Want to Describing Future plans and Intentions Expressing Wants Weather Forecasts	
22	同上	Chapter 14 Future: Going to Time Expressions Want to Describing Future plans and Intentions Expressing Wants Weather Forecasts Telling Time Making Predictions	
23	同上	Chapter 14 Future: Going to Time Expressions Want to Describing Future Plans and Intentions Expressing Wants Weather Forecasts Telling Time Making Predictions Side by Side Gazette	
24	同上	Chapter 14 Test Chapter 15 Past tense Regular Verbs Introduction to Irregular verbs Past Actions and Activities	

講義計画
学修内容

NO	担当者	学修内容	備考
25	Gerald Knoke	Chapter 15 Past Tense: Regular Verbs Introduction to Irregular verbs Past Actions and Activities Ailments Describing an Event Making a Doctor's Appointment	
26	同上	Chapter 15 Past Tense: Regular Verbs Introduction to Irregular verbs Past Actions and Activities Ailments Describing an Event Making a Doctor's Appointment	
27	同上	Chapter 15 Past Tense: Regular Verbs Introduction to Irregular verbs Past Actions and Activities Ailments Describing an Event Making a Doctor's Appointment	
28	同上	Chapter 15 Test Chapter 16 Past Tense: Yes/ No Questions Short Answers WH- Questions	
29	同上	Chapter 16 Past Tense: Yes/ No Questions Short Answers WH- Questions More Irregular verbs Time Expressions Reporting Past Actions and Activities Giving Reasons Giving Excuses	
30	同上	English 2 Review	

Syllabus (授業計画) 用紙

科目名	コミュニケーション論		対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	後期	単位数
担当者氏名	安藤 竜	実務経験の内容	本科目の担当教員は、人材サービス会社にて就労支援講座の講師を務め、ビジネスにおいて必要とされるコミュニケーションやマナーに関する講演や教材開発の実績を有している。本科目では、これらの実務経験を活かして、コミュニケーションについて実践的な解説等を行う。	
実務経験のある教員による授業科目 (○/ー)	○			

講義概要

講義概要	ビジネスにおける様々な場面において、自分自身を表現でき、また相手を受け入れることができるコミュニケーション能力は必要不可欠である。また、グローバル化とIT化に伴い、私たちを取り巻く「コミュニケーション」は、直接的・間接的を含み、大きく変化し変容しつつある。本講義では、コミュニケーションについて、言語的な話す力と聞く力、論理的思考力、また、非言語での表現力、観察力を養い、相手とのスムーズな相互理解を深める基礎を身につける。また、それらを日々の生活やビジネスの場などでどのように活かしていくか、自分の伝えたい事を相手に伝える手段や方法について解説する。			
到達目標	人間関係を円滑に構築するためのコミュニケーションスキルについて考察し、実践できるようになる。			
講義方法	主として講義による。必要に応じて視聴覚教材を使用する。			
授業時間外における予・復習等の指示	家庭やアルバイト先などでの実践を心がけ、授業内容の復習をすること。			
成績評価の方法	平常点 (主体的な授業参加度) (50%)、定期試験 (50%)			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	実践ビジネス・コミュニケーション	創成社	1,760円	978-4794480828
履修上の注意	積極的な発言を求める。			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	安藤 竜	オリエンテーション 学ぶ内容、学び方、および成績評価について説明を行う。	—
2	同上	ハーマンモデルの活用とコミュニケーション。考え方のタイプの違いがコミュニケーションに及ぼす効果について学修する。	—
3	同上	他者に対する働きかけ (ストローク) の活用と信頼関係 (ラポール) の形成	—
4	同上	傾聴スキルを学修する。アクティブリスニングとリフレクティブリスニング	—
5	同上	効果的な質問の方法について学修する。オープンクエスチョンとクローズドクエスチョン	ワーク形式
6	同上	接客現場でのコミュニケーション。敬語の使い分けと実践。	—
7	同上	コーチング基礎。コーチングの基礎とティーチングとの使い分けについて学修する。	—
8	同上	効果的な会議とファシリテーション。効果的な会議の原則。ホワイトボードの活用について学修する。	ワーク形式
9	同上	上司・部下とのコミュニケーション。報連相の基本について学修する。	—
10	同上	面談におけるコミュニケーション。1on1ミーティングの技法について学修する	—
11	同上	電話コミュニケーション。電話対応における言葉遣いについて学修する。	—
12	同上	メール・SNSコミュニケーション。ビジネスメールの書き方とマナーについて学修する。	—
13	同上	クレーム対応のコミュニケーション。クレーム対応の鉄則について学修する。	—
14	同上	怒りとコミュニケーション。アンガーマネジメントの活用について学修する。	—
15	同上	異文化コミュニケーション。外国人の顧客・従業員とのコミュニケーションについて学修する。	—

Syllabus (授業計画) 用紙

科目名	経営学概論			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	前期	単位数	2単位
担当者氏名	藪下 保弘	実務経験の内容	—		
実務経験のある教員による授業科目 (○/ー)	—				

講義概要

講義概要	現代社会において、経営の考え方は営利を目的とした企業だけでなく、非営利の学校や病院の組織なども含めて適用することができる。本講義では経営学に初めて触れる学生を対象に、経営学の概念や理論に関する基本的な論点を体系的に解説し、経営学とは何かを理解し基礎的な考え方を身につけることを目標とする。			
到達目標	経営学の考え方と基礎理論を理解する。			
講義方法	講義			
授業時間外における予・復習等の指示	講義の進行と対応して経営学の入門書を1冊読み、予習・復習に活用することが望ましい。			
成績評価の方法	平常点 (主体的な授業参加度) (50%)、小テスト・定期試験 (50%)			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	使用しない。	—	—	—
履修上の注意	—			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	藪下 保弘	経営学を学ぶ意義	—
2	同上	企業経営とは	—
3	同上	経営資源について	—
4	同上	企業の構成要素、内部環境と外部環境	—
5	同上	株式会社、持ち株会社の仕組みと運営	—
6	同上	集団・組織のメカニズム	—
7	同上	人と組織を動かす (動機づけの考え方)	—
8	同上	組織における意思決定 (権限と責任)	—
9	同上	企業戦略と戦術	—
10	同上	リーダーとマネジャー	—
11	同上	事業の集中化と多角化	—
12	同上	人事管理の仕組み	—
13	同上	組織形態と組織構造の選択	—
14	同上	経営学の広がり (非営利組織への適用)	—
15	同上	まとめ	—

Syllabus (授業計画) 用紙

科目名	経済学概論			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	前期	単位数	1単位
担当者氏名	木戸田 力	実務経験の内容	—		
実務経験のある教員による授業科目 (○/ー)	—				

講義概要

講義概要	本講義では、最初に経済とは何かを説明し、その上で付加価値や総生産、成長率など経済の動きを理解するために必要となる様々な概念について学び、現実の経済構造や経済動向を理解するための視点や考え方の基礎を身につけることを目的とする。			
到達目標	新聞等に記載されている経済関連の記事について、内容を理解することができるようになる。			
講義方法	講義			
授業時間外における予・復習等の指示	経済に関する新聞や雑誌記事に日常的に接するようにすること。			
成績評価の方法	平常点 (主体的な授業参加度) (50%)、小テスト・定期試験 (50%)			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	使用しない。	—	—	—
履修上の注意	—			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	木戸田 力	経済とは何か	—
2	同上	経済における貨幣の役割と仕組み	—
3	同上	需要曲線と供給曲線	—
4	同上	経済主体と付加価値創出	—
5	同上	GNPとGDPの考え方	—
6	同上	名目成長率と実質成長率	—
7	同上	三面等価の原則と経済政策	—
8	同上	為替相場変動と国内経済	—

Syllabus (授業計画) 用紙

科目名	簿記論			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	前期	単位数	2単位
担当者氏名	木戸田 力	実務経験の内容	—		
実務経験のある教員による授業科目 (○/ー)	—				

講義概要

講義概要	簿記は、業種や業態、企業規模を問わず、企業の日々の経営活動を帳簿に記録・計算・整理し、企業の財政状態と経営成績を明らかにする技術のことを指す。また、会計学の基盤となる重要な科目である。 本講義では、簿記に関する基本的な知識と技術の習得を目指すとともに、簿記一巡の流れを学ぶ。具体的には、企業を運営するうえで行われる基本的な取引を用いて、仕訳・転記・試算表作成といった手続きを習得し、記録するために用いられる様々な帳簿や、貸借対照表・損益計算書といった財務諸表の構成について学修する。			
到達目標	簿記に関する基礎知識や技術を習得し、簿記の仕組みを理解できるようになる。			
講義方法	講義			
授業時間外における予・復習等の指示	予習として、授業の範囲を読んでおくこと。復習も兼ねて、授業の内容を理解するために配布した課題を提出すること。			
成績評価の方法	小テスト (30%)、課題 (10%)、定期試験 (60%)			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	スッキリわかる日商簿記初級(第2版)	TAC出版	1,080円	978-4813274735
履修上の注意	電卓(詳細については第1回の講義で説明)を毎回の授業および定期試験時に持参すること。			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	木戸田 力	第1章 簿記の基礎 取引の発生と貸借対照表や損益計算書が作成できるまでの手続きについて	ガイダンス(簿記論で学ぶ内容、学び方および成績評価について)を含む。
2	同上	第2章 商品売買 (1) 商品売買仕訳と仕訳の手続きについて	講義の中で課題を指示する。
3	同上	第2章 商品売買 (2) 商品売買に関する取引のうち、運賃の負担関係や代金の支払方法、消費税などの正確な処理方法について	同上
4	同上	第3章 現金・預金 現金だけでなく、様々な預金に関する取引の正確な処理方法について	同上
5	同上	小テスト (1) および解説	講義1~4のまとめを行う。
6	同上	第4章 手形と電子記録債権(債務) 商品代金の決済方法としての手形や電子記録債権・債務に関する取引の正確な処理方法について	講義の中で課題を指示する。
7	同上	第5章 貸付金・借入金、第6章 その他の取引 (1) 商品取引以外で発生する債権・債務のうち、貸付金・借入金、未収入金・未払金に関する取引の正確な処理方法について	同上
8	同上	第6章 その他の取引 (2) 商品取引以外で発生する債権・債務のうち、立替金・預り金、仮払金・仮受金に関する取引の正確な処理方法について	同上
9	同上	第7章 固定資産 営業活動を行う上で長期的に必要な資産である固定資産の取得および売却、減価償却に関する取引の正確な処理方法について	同上
10	同上	第8章 租税公課と消費税・資本金 資本金の増加や減少、税金、資本金の増減に関係する収益や費用の発生に関する取引の正確な処理方法について	同上
11	同上	小テスト (2) および解説	講義6~10のまとめを行う。
12	同上	第9章 帳簿への記入、第10章 試算表 総勘定元帳や補助簿、試算表の種類や役割と、仕訳・転記・試算表作成といった簿記一巡の流れについて	講義の中で課題を指示する。
13	同上	第11章 伝票と仕訳日計表 仕訳を仕訳帳ではなく伝票を用いた記帳方法で行うとともに、仕訳日計表の作成および総勘定元帳への転記といった一連の正確な処理方法について	同上
14	同上	小テスト (3) および解説	講義12~13のまとめを行う。
15	同上	問題演習(日商簿記初級の模擬問題)および解説	講義の中で課題を指示する。

Syllabus (授業計画) 用紙

科目名	経営管理論			対象学部	フードサービスマネジメント 学部
配当年次	1年次	開講期間	後期	単位数	2単位
担当者氏名	松島 大輔	実務経験の内容	—		
実務経験のある教員による授業科目 (○/ー)	—				

講義概要

講義概要	本講義では、企業組織を管理していく上での考え方と代表的な理論について学ぶ。経営管理とは、組織を支配し厳密にコントロールすることではなく、いかにして組織が持つ機能を有効に発揮させるかである。そのためには組織の最小単位である人をどのように位置づけるかから始まり、人の持つ欲求と働いてもらうための動機づけとの関連、組織運営や組織形態について学ぶ。また、経営管理論の発展過程を追いながら企業における管理と自由のバランスについて触れ、組織をどのように運営すべきなのかを考えていく。			
到達目標	企業の組織運営に関する考え方とそのバックグラウンドになっている理論を理解し、説明できる。			
講義方法	講義			
授業時間外における予・復習等の指示	関連書籍を自分で選択し読み込むことが望ましい。			
成績評価の方法	平常点 (主体的な授業参加度) (50%)、小テスト・定期試験 (50%)			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	経営学入門シリーズ 経営組織 (日経文庫)	日本経済新聞出版	946円	978-4-532-10537-2
履修上の注意	—			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	松島 大輔	ガイダンス (講義の目的、科目の学び方)、経営管理論の概要	—
2	同上	人と組織	—
3	同上	人に対する見方: 機械的人間観と人的人間観	—
4	同上	人の欲求とモチベーション、マズローの欲求5段階説	—
5	同上	経済人モデルと社会人モデル	—
6	同上	集団や組織における協働の仕組み	—
7	同上	F.テイラーの科学的管理法とフォードシステム、標準化の考え方	—
8	同上	ホーソン実験の概要と意義	—
9	同上	バーナードの人間関係論、公式組織と非公式組織	—
10	同上	組織管理と組織構造 (ピラミッド型、フラット型、マトリクス型、プロジェクト型、アメーバ型)	—
11	同上	管理と自由のバランス、3M社の考え方を事例として	—
12	同上	組織の分化と統合、パナソニック社を事例として	—
13	同上	R.リッカートの連結ピン理論	—
14	同上	経営管理とリーダーシップ	—
15	同上	現代の企業における管理の仕組み	—

Syllabus（授業計画）用紙

科目名	マーケティング論		対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	後期	単位数
担当者氏名	清水 恭彦	実務経験の内容	本科目の担当教員は、食品メーカーを含む国内大手企業にて海外市場の開拓や営業を長年担当した。経営戦略の策定・実行の豊富な経験があり、海外顧客との取引や新規ビジネス立ち上げで得たノウハウと知見を活かして、マーケティングについて実践的な解説を行う。	
実務経験のある教員による授業科目（○/ー）	○			

講義概要

講義概要	マーケティングは、市場（顧客）が求める製品やサービスを適切な形で創り出し、その情報を市場へ提供し、適切に供給して行くためにはどうすればよいかを考える実務的な学問である。 その意味を理解し、成否、価格、流通、プロモーションという面を中心に、ブランディングやマーケティングリサーチにおける具体的な手法とその背景にある考え方について理解する。			
到達目標	企業のマーケティング活動の意義と手法を理解することができる。			
講義方法	講義			
授業時間外における予・復習等の指示	学んだ内容を、現実の事象に応用して考える習慣をつける。			
成績評価の方法	平常点（主体的な授業参加度）（50%）、定期試験（50%）			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	使用しない。	—	—	—
履修上の注意	さまざまな概念をしっかりと理解できるように予習復習を行うこと。 入門書を1冊最初から最後まで読み通すことが望ましい。			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	平田 透	マーケティングとは何か	—
2	同上	マーケティング概念の歴史の変遷	—
3	同上	マーケティングの3C（企業、顧客、競争相手）と4P（製品、価格、流通、プロモーション）	—
4	同上	製品開発と製品の競争力	—
5	同上	価格設定と価格戦略	—
6	同上	流通（販売チャンネル）の考え方（オープンチャンネルとクローズドチャンネル）	—
7	同上	プロモーションとプロモーションミックスの考え方	—
8	同上	プロダクトライフサイクルの4ステップ（導入期、成長期、成熟期、衰退期）とプロモーション活動	—
9	同上	事例から学ぶ経験効果と規模効果	—
10	同上	事例から学ぶシナジー（相乗）効果	—
11	同上	マス・マーケティングとセグメンテーションマーケティング、ターゲティングとは何か	—
12	同上	ブランドとブランディングプロセスを理解する。	—
13	同上	マーケティングリサーチの考え方	—
14	同上	マーケティングリサーチの手法	—
15	同上	まとめ	—

Syllabus (授業計画) 用紙

科目名	会計学		対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	後期	単位数
担当者氏名	木戸田 力	実務経験の内容	—	
実務経験のある教員による授業科目 (○/ー)	—			

講義概要

講義概要	<p>会計は私たちの経済社会を支えている制度の1つで、その構造や役割について学ぶのが会計学である。本講義では、様々な会計とその関係性について学び、会社の経営活動を会計情報から読み解く力を身につける。まず、1年次前期で学んだ簿記論の内容を含めた財務会計や、1年次後期で学習する原価計算を含む管理会計を中心に、税務会計や非営利会計、会計監査など、現代会計の諸領域について解説する。次に、財務会計の基本的な仕組みを踏まえたうえで、財務諸表の構造と関係性、活用方法について学ぶ。</p>			
到達目標	<p>(1) 会計の意義や役割を認識し、経営者や利害関係者が会計情報をどのように活用しているのかを理解する。 (2) 会計で最も重要な書類(財務諸表)の構造と関係性について理解する。 (3) 書類(財務諸表)に記載されている会計情報から企業の財政状態や経営成績を読み取る力だけでなく、グループワークを通して理解を深める。</p>			
講義方法	主として講義による。一部、グループワーク・発表を行う。			
授業時間外における予・復習等の指示	テキストや資料を読んでおくなど、適宜指示する。			
成績評価の方法	定期試験 (50%)、課題 (50%)			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	基本財務会計	税務経営協会	2,600円	9784419067175
履修上の注意	電卓(詳細については第1回の講義で説明)を毎回の授業および定期試験時に持参すること。			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	木戸田 力	第1章 意思決定と情報、第2章 会計情報の役立ち 私たちが意思決定を行う際に必要不可欠な情報の意義や役割を踏まえ、経営者や利害関係者にとって有用な会計情報について考える。	ガイダンス(会計学で学ぶ内容、学び方および成績評価について)を含む。
2	同上	第3章 ディスクローチャー制度 財務会計と会計監査の関係を踏まえたうえで、金融商品取引法と会社法のもとで行われている書類(財務諸表)の開示について理解する。	講義の中で課題を指示する。
3	同上	第4章 有価証券報告書/アニュアル・レポート 有価証券報告書およびアニュアル・レポートの意義と役割を理解するとともに、財務諸表の信頼性を確保するために必要な制度についても考える。	同上
4	同上	第5章 貸借対照表 (1) 貸借対照表の意義や内容、表示形式だけでなく、貸借対照表に記載されている資産の種類と、その計上方法について理解する。	同上
5	同上	第5章 貸借対照表 (2) 貸借対照表に記載されている負債や純資産の種類と、その計上方法を理解し、企業の財政状態を読み取る力を身につける。	同上
6	同上	第6章 損益計算書 (1) 損益計算書の意義や内容、表示形式だけでなく、貸借対照表との関係性についても理解する。	同上
7	同上	第6章 損益計算書 (2) 損益計算書に記載されている収益や費用の種類と、その計上方法を理解し、企業の経営成績を読み取る力を身につける。	同上
8	同上	第7章 キャッシュ・フロー計算書、第8章 株主資本等変動計算書・製造原価報告書 キャッシュ・フロー計算書、株主資本等変動計算書や製造原価報告書の意義や内容を理解し、これらの財務諸表から会計情報を読み取る力を身につける。	同上
9	同上	第9章 収益性分析: ROAとROE ROA(総資産利益率)とROE(自己資本利益率)の違いや、売上高を用いた原因分析について学ぶ。また、財務諸表以外の情報を利用した分析についても学習する。	同上
10	同上	第10章 収益性分析: CVP 損益分岐点分析の意義と計算方法について学び、損益分岐点分析からわかることや注意点について考える。	同上
11	同上	第11章 成長性分析: 増加率、第12章 成長性分析: 売上予測 成長性分析に用いる指標の種類とその内容を学び、経営資源の成長バランスについて考える。また、売上予測を行う計算方法を学び、経営上の課題についても考える。	同上
12	同上	第13章 安全性分析 貸借対照表や損益計算書、キャッシュ・フロー計算書を用いた安全性分析の種類とその内容について学ぶ。	同上
13	同上	第14章 IR情報の開示・分析、第15章 企業価値の分析 有価証券報告書やアニュアル・レポートから読み取れるセグメント情報等を活用する能力を身につける。また、企業価値分析の種類とその内容についても学ぶ。	同上
14	同上	グループワーク 前回の授業で案内していた企業の会計情報を用いて、各自で分析してきた内容をもとに、グループごとで意見交換し、発表の準備をする。	同上
15	同上	発表・まとめ 各グループで話し合った内容について、プレゼンテーションソフト等を用いて発表する。	講義全体の復習を兼ねる。

Syllabus (授業計画) 用紙

科目名	原価計算論			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	後期	単位数	2単位
担当者氏名	木戸田 力	実務経験の内容	—		
実務経験のある教員による授業科目 (○/ー)	—				

講義概要

講義概要	<p>原価計算は、企業が利益を確保するために必要な管理項目の1つで、経営者の意思決定に有用な信頼できる原価情報を提供するため、財務諸表を作成するために重要な役割を担っている。</p> <p>本講義では、企業が合理的に経済活動を行うにあたり必要な原価計算の意義について学び、企業経営の基礎となる会計リテラシーを身につける。まず、原価とは何かについて理解し、原価計算がどのような行為であるかを段階的に学ぶ。次に、原価計算の基本的な計算技法の理論を理解し、より正確な原価を測定することができるようにする。最終的には、原価計算から得られた会計情報を用いて、企業の経営課題について考える。</p>			
到達目標	原価計算に関する基礎知識や技術を習得する。			
講義方法	講義			
授業時間外における予・復習等の指示	予習として、授業の範囲を読むこと。復習も兼ねて、授業の内容を理解するために配布した課題を提出すること。			
成績評価の方法	小テスト (30%)、課題 (10%)、定期試験 (60%)			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	原価・管理会計 第2版	五紘舎	2,200円	978-4-86434-003-8
履修上の注意	電卓(詳細については第1回の講義で説明)を毎回の授業および定期試験時に持参すること。			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	木戸田 力	第1章 原価計算の基礎 原価計算の目的を踏まえたうえで、製造業やサービス業における原価計算の応用例などを用いて原価計算の手続きを学習する。	ガイダンス(原価計算論で学ぶ内容、学び方および成績評価について)を含む。
2	同上	第2章 CVP分析 (1) 直接原価計算の意味と手続きを学び、基本的な利益計画が立てられるようにする。	講義の中で課題を指示する。
3	同上	第2章 CVP分析 (2) 原価の固定分解や目標売上高営業利益率を達成するための売上高を求めるなど、より実践的な利益計画を行うことができるようにする。	同上
4	同上	第3章 予算実績差異分析 予算実績差異分析の意義を理解したうえで、差異分析の方法を習得する。	同上
5	同上	小テスト (1) および解説	講義1~4のまとめを行う。
6	同上	第4章 原価計算の流れ、第5章 材料費 原価計算の流れ(費目別計算、部門別計算、製品別計算)を理解したうえで、費目別計算の1つである材料費の種類を理解するとともに、材料費の計算方法を習得する。	講義の中で課題を指示する。
7	同上	第6章 労務費 費目別計算の1つである労務費の種類を理解するとともに、労務費の計算方法を習得する。	同上
8	同上	第7章 経費 費目別計算の1つである経費の種類を理解するとともに、経費の計算方法を習得する。	同上
9	同上	第8章 製造直接費と製造間接費 製造直接費と製造間接費の違いについて学び、材料費・労務費・経費の各項目を製造直接費と製造間接費に分類できるようにする。	同上
10	同上	小テスト (2) および解説	講義6~9のまとめを行う。
11	同上	第9章 製造原価の計算 費目別に計算した材料費・労務費・経費の合計である製造原価を、完成品原価と月末仕掛品原価および、売上原価と月末製品原価に分ける計算方法を習得する。	講義の中で課題を指示する。
12	同上	第10章 損益計算書の作成 損益計算書の意義を理解したうえで、損益計算書の作成方法を習得する。	同上
13	同上	第11章 原価計算初級の仕訳 原価計算の結果を記録する方法の1つである仕訳という手続きを習得する。	同上
14	同上	小テスト (3) および解説	講義11~13のまとめを行う。
15	同上	問題演習(日商簿記原価計算初級の模擬問題)および解説	講義全体の復習を兼ねる。

Syllabus (授業計画) 用紙

科目名	法学概論			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	前期	単位数	2単位
担当者氏名	名古屋功	実務経験の内容	—		
実務経験のある教員による授業科目 (○/ー)	—				

講義概要

講義概要	<p>法は、社会生活を営む上で、常に関わりを持つものである。 本講義では、法律が現実社会の中でどのような役割を果たしているのか身近な法律問題を通じて学び、法律の重要性を理解する。さらに、法的思考を身につけることによって、法学の視点で様々な社会問題について、各自が思考できることを目指す。 フードサービス産業や学生に身近なテーマを取り上げる。</p>			
到達目標	法律問題の解決方法を自ら考える法的思考力を養成するとともに、直面した場合の対応方法を習得する。			
講義方法	主として講義による。受講生との議論など双方向授業を試み、その主体的参加を目指す。			
授業時間外における予・復習等の指示	次回講義のレジュメを配布するので、予習する。復習は必ず行う。			
成績評価の方法	平常点 (主体的な授業参加度) (40%)、定期試験 (60%)			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	緒方・豊島・長谷河編 『日本の法』	日本評論社	1,800円	978-4-535-52113-1
履修上の注意	—			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	名古屋功	現代社会における法の意義と役割 フード産業とサービス産業の実情や法律問題を素材にして、法の意義と役割を理解する。	—
2	同上	消費者・顧客と法 消費者契約法やクレジット契約などの規制と仕組みを学び、消費者保護の必要性と「契約」の意義を理解する。	—
3	同上	ビジネスと法 ビジネスの開始と遂行には様々な法規制がある (会社法、独禁法、風営法など) サービス産業に関わる法律の内容を学ぶ。	—
4	同上	食品製造・販売と法 食品衛生法に基づく営業許可やJAS法に基づく表示などの規制を理解する。	—
5	同上	フランチャイズ コンビニやレストランの多くはフランチャイズで経営されている。フランチャイズの意義やフランチャイズ契約の内容と課題などを学ぶ。	—
6	同上	外国人と法 2019年入管法改正によって、外国人の就労が増加する。外国人に対する法規制や雇用・就労にあたって留意すべき点を学ぶ。	—
7	同上	カスタマーハラスメント 店員等が顧客から受ける暴言や暴行の実情と法的対応を考える。	—
8	同上	ブラック企業 サービス残業やパワハラなどが横行するブラック企業の現状と法的対応を学ぶ。	—
9	同上	アルバイトと法 アルバイトで直面する法律問題を取り上げる。いくつかの事例の考察と通じて、解決策と対応を学ぶ。	—
10	同上	社会保険と生活保護 労働者・家族の生活保障に不可欠の医療保険、年金保険、介護保険、雇用保険、労災保険を学ぶ。生活保護のあり方も考える。	—
11	同上	交通事故と法 交通事故の法的責任や自賠責保険などを取り上げ、不法行為や損害賠償の内容を理解する。	—
12	同上	アパートの賃借 アパートの賃借で生じる法律問題を考える。契約内容 (約款)、更新、現状回復義務、賃貸借期間などを取り上げる。	—
13	同上	家族と法 子供の養育、結婚、相続のほか、虐待に対する法的対応を学ぶ。	—
14	同上	少年犯罪 少年犯罪の実情と背景、「厳罰化」の議論などを通じて、少年犯罪への考え方や刑法の意義・機能を学ぶ。	—
15	同上	法律紛争解決システム 法律紛争の相談機関 (消費者センター、弁護士など) や解決機関 (裁判所、調停機関等) の状況と対応方法を学ぶ。	—

Syllabus（授業計画）用紙

科目名	労務管理と法			対象学部	フードサービスマネジメント 学部
配当年次	1年次	開講期間	後期	単位数	2単位
担当者氏名	名古 道功	実務経験の内容	—		
実務経験のある教員による授業科目（○/—）	—				

講義概要				
講義概要	<p>労務管理は、労働法に基づき行う必要がある。労働法とは、個別的労使関係と集団的労使関係を規律する法律の総称であり、労働者の地位の保護・向上や労働組合の権利等を定める。具体的には、労働三法、職業安定法・最低賃金法・雇用保険法・労働者災害補償保険法などが挙げられる。本講義では、サービス産業やフード産業において留意すべき法律問題を取り上げる。特に、個々の労働者と使用者との個別的な労働関係（労働契約）に関わる雇用関係法を対象とする。事例を通じてその具体的な適用の様相を把握し、実務に役立つことを目標とする。</p>			
到達目標	<p>労務管理を行うにあたって生じる労働法上の諸問題とその解決方法を理解し、適正な労務管理ができる能力を習得する。</p>			
講義方法	<p>主として講義による。短答式問題を回答させるなど、双方向授業を目指す。</p>			
授業時間外における予・復習等の指示	<p>次回講義のレジュメを配布するので予習すること。また、復習は必ず行うこと。</p>			
成績評価の方法	<p>平常点（主体的な授業参加度）（40%）、定期試験（60%）</p>			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	使用しない。	-	-	-
履修上の注意	—			

講義計画			
NO	担当者	学修内容	備考
1	名古 道功	労働法総論 サービス産業やフード産業の働き方の実情を紹介し、良好な職場環境を作るための労働法の役割を学ぶ。	—
2	同上	採用 採用プロセス（求人、求職、採用試験、内々定、内定、試用）において生じる法律問題を学び、採用にあたって留意すべき点を習得する。	—
3	同上	パート、アルバイト、外国人の雇用 フードサービス産業で多く働くこれらの労働者の雇用では、正規労働者とは異なった規制が求められる。この点を学ぶ。	—
4	同上	労働条件の決定と変更 賃金、労働時間などの労働条件の決定・変更にあたって重要な役割を果たす就業規則について学ぶ。	—
5	同上	労働契約上の権利義務 労働契約が締結されると、労働義務と賃金支払い義務のほか、秘密保持・競業差止めや安全配慮義務などさまざまな権利義務が発生する。これを理解する。	—
6	同上	雇用平等・ハラスメント 男女の雇用平等をめぐる法規制、及びセクハラやパワハラなどのハラスメントへの対応を理解する。	—
7	同上	職場の規律と懲戒 円滑な事業運営のための職場規律の必要性、及びその違反に対する懲戒処分を課す際に留意すべき点を習得する。	—
8	同上	労働時間 法定労働時間（1日8時間、週40時間）の原則、及び時間外・休日労働を行うにあたって必要な三六協定を学ぶ。	—
9	同上	休憩・休日・休暇 労基法に規定された休憩・休日・休暇の内容を学び、振替休日や年休の計画的取得などを行うにあたって留意すべき点を習得する。	—
10	同上	賃金 賃金支払4原則（通貨・直接・金額・定期日払い）の内容、及びその例外を学ぶ。	—
11	同上	労働安全衛生と労災補償 労災が発生すると「業務上」認定によって労災補償が受けられる。労災補償に関する法的問題、及び防止措置を学ぶ。	—
12	同上	雇用関係の終了 退職・解雇での留意点を学ぶ。特に解雇に関する厳しい規制（解雇権濫用法理）を理解する。	—
13	同上	多様な就業形態 パート、派遣、有期雇用などの非正規雇用労働者に関する法規制を学ぶ。	—
14	同上	労働組合 労働組合の結成と活動、団交・争議に関する法規制、及び使用者による労働組合の活動等への干渉・妨害（不当労働行為）の禁止について学ぶ。	—
15	同上	労働紛争解決システム 裁判所、労働審判、労基署、労働委員会など、労働紛争を解決するシステムの役割を理解する。	—

Syllabus (授業計画) 用紙

科目名	食品学			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	前期	単位数	2単位
担当者氏名	相良 多喜子	実務経験の内容	—		
実務経験のある教員による授業科目 (○/ー)	—				

講義概要

講義概要	<p>生物由来産物である食品は、摂取することにより栄養は代謝・吸収されエネルギー源や生体構成成分となる。またエネルギーとはならない栄養素も種々の生理機能の役割を果たしている。</p> <p>本講義では、食品の一次機能・栄養機能、二次機能・嗜好機能、三次機能・体調節機能について理解することを目指し、食品の成分や機能などを総合的に学ぶ。また、食生活を理解し、食品表示制度と規格基準を学ぶとともに、生化学や基礎栄養学を取り入れながら食品を機能面から理解することができるよう解説する。</p>			
到達目標	食生活および食品に関する制度・基準を理解し、さらに食品を機能面から理解できるようになる。			
講義方法	講義			
授業時間外における予・復習等の指示	適宜、テキストや参考資料を指示する。それらを通読して理解しておくことを勧奨する。			
成績評価の方法	小テスト (40%)、定期試験 (60%)			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	食品学総論	中山書店	2,916 円	978-4-521-74287-8
履修上の注意	—			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	相良 多喜子	食品学総論で学ぶ内容、学び方、成績評価等について説明を行う。	ガイダンスを含む。
2	同上	食品の成分と分類、さらに食品成分を理解するための食品を構成する原子について理解する。また食品の一次機能 (栄養機能)、二次機能 (嗜好機能)、三次機能 (体調節機能) について学ぶ。	講義の区切りにおいて小テストを行う場合がある。
3	同上	食品の成分である炭水化物の種類と構造・性質に関して、また食物繊維の成分及び機能について学ぶ。	同上
4	同上	食品の成分であるたんぱく質について、分類・構造及びアミノ酸の構造、ペプチド結合について学ぶ。	同上
5	同上	食品の成分である脂質について、種類・構造及び化学的性質・生理作用、脂質の摂取が健康に及ぼす影響について学ぶ。また、食品と水分との関係、食品の保存に関する水の影響についても学ぶ。	同上
6	同上	食品の成分であるビタミンについて、種類・分類・生理作用及びビタミンが多く含まれる食品について学ぶ。また、ビタミンの欠乏症と過剰症が身体に与える影響についても学ぶ。	同上
7	同上	食品の成分である無機質について、種類・性質・所在及び生理機能、欠乏症と過剰症が身体に与える影響について学ぶ。また水分と食品の状態、食品の保存に対する水の影響について、水の構造と性質、冷凍・冷蔵保存について学ぶ。	同上
8	同上	色素成分について、色素の構造、色素等が含まれる食品について理解するとともに、調理加工・保存における色素の変化について学ぶ。	同上
9	同上	呈味成分について、五基本味を中心とした味覚成分の構造・機能、味覚の感知等について理解し、さらに、呈味成分の分類と特徴を学ぶ。	同上
10	同上	におい成分である香りについて、食品の香りを感知するしくみについて理解するとともに、特徴的な性質、動物性・植物性香り、さらに、食品のにおいの原因成分について学ぶ。	同上
11	同上	食品の物性について、コロイドの種類・特性、食品のレオロジー、粘性と弾性、液状食品の流動特性等について学ぶ。またテクスチャーと測定方法についても学ぶ。	同上
12	同上	これまで学んだ食品学の知識を活かし、食品のおいしさについて官能評価の種類と手法、官能評価に影響を及ぼす因子について学ぶ。	同上
13	同上	食品表示制度、食品表示法の概要と規定について、食品表示基準、品質表示・成分表示・期限表示等について学ぶ。	同上
14	同上	食品の規格基準について、保健機能食品・特別用途食品について種類・特徴を理解する。また栄養成分表示と栄養強調表示について学ぶ。	同上
15	同上	食品の生理調節機能について、機能性成分の機能・作用、食品の三次機能を学ぶ。さらに食品成分による生活習慣病予防・アレルギー改善について学ぶ。	まとめを兼ねる。

Syllabus (授業計画) 用紙

科目名	食品衛生学			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	後期	単位数	2単位
担当者氏名	松井 利夫	実務経験の内容	—		
実務経験のある教員による授業科目 (○/ー)	—				

講義概要

講義概要	<p>フードサービスを取り扱う企業にとって、食品の安全を担保する管理体制の徹底や食品を取り扱う職業従事者としての倫理観や使命感は、常に念頭に置いて作業を行う必要がある。実際に、食品の大量生産や流通経路の広域化、製造技術の高度化に伴い、食中毒をはじめとする食品事故が発生している。本講義では、食品衛生の現状を見つめ、食品の安全と衛生の重要性を認識し、食品の腐敗、変質等、食品による感染症、寄生虫、食品汚染物、異物等の知識や対策技術を習得するとともに、飲食に伴う疾患を理解し、食品衛生の管理を担う店舗管理者としての自覚を養う。</p>			
到達目標	食品衛生学についての基礎的な知識を身につけ、一般的な食に関わるあらゆる事柄（食中毒、食に関わる健康被害や疾病等）の意味を理解できるようになる。			
講義方法	講義			
授業時間外における予・復習等の指示	適宜、テキストや参考資料を指示する。それを読んで理解しておくこと。			
成績評価の方法	レポート（20%）、定期試験（80%）			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	図解食品衛生学～食べ物と健康、食の安全性～第6版	講談社	2,640円	978-4-06-520817-5
履修上の注意	毎回の授業で小テストを実施する。			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	松井 利夫	食品衛生学の歴史的経過を含めた概論と学び方および成績評価について説明を行う。	ガイダンスを含む。
2	同上	食品の供給・汚染・安全性について解説し、食品の流通から消費までの過程について学ぶ。	講義の区切りにおいて小テストを行う場合がある。
3	同上	食品の加工・保存・調理過程に伴う腐敗・変質の機構について解説し、食中毒などのリスクを回避する考え方を学ぶ。	同上
4	同上	食品の品質変化によって生じる有害物質発生のメカニズムを解説し、これに伴う食中毒など予防について学ぶ。	同上
5	同上	食中毒の総論を解説し、各論として、細菌性食中毒を解説し、食中毒予防について学ぶ。	同上
6	同上	食中毒の各論として、ウイルス性食中毒について解説し、食中毒予防について学ぶ。	同上
7	同上	食中毒の各論として、天然自然毒性食中毒について解説し、食中毒予防について学ぶ。	同上
8	同上	人畜共通感染症や寄生虫症について解説し、この結果から生じる疾病について学ぶ。	同上
9	同上	保存・防腐・着色等のために添加されている食品添加物の種類・規格・基準・表示等について解説し、これらの適正な使用について学ぶ。	同上
10	同上	食品中に有害汚染物質（例：農薬・重金属・放射能・環境汚染物質等）の毒性について解説し、これらの摂取に伴う健康影響・被害について学ぶ。	同上
11	同上	意図的もしくは非意図的に食品に含まれる毒物の人体や環境への影響について解説し、この結果生じるヒトの健康への影響評価・安全性について学ぶ。	同上
12	同上	学校給食施設などの大規模調理施設における衛生管理について解説し、施設でのリスクを評価や食中毒発生の未然防止のHACCPについて学ぶ。	同上
13	同上	食品衛生を確保するための考え方、消毒・殺菌・滅菌の原理を解説し、食中毒等事件をなくす方法について学ぶ。	同上
14	同上	食品取扱者等における良好な衛生状態を確保するための方策・考え方を解説し、毎日点検等の衛生管理方法について学ぶ。	同上
15	同上	食品に関わる衛生上の問題や食品ロス・食品リサイクル等の現状を解説し、フードサービスのマネジメントを遂行する上での課題について学ぶ。	同上

Syllabus（授業計画）用紙

科目名	フードサービス産業論			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	後期	単位数	1単位
担当者氏名	堀田 宗徳	実務経験の内容	—		
実務経験のある教員による授業科目（○/—）	—				

講義概要

講義概要	国内における「食」に関わる産業の生産額は、116.8兆円といわれており、フードサービス産業は、その中の約25兆円の市場とされている。我々の生活において、フードサービス産業は密接に関わりをもっており、それはフードサービスの提供を受ける消費者としての関わりだけでなく、サービスを提供する従事者としても関わる機会が多い。 本講義では、フードサービス産業の業種と業態、基本的な産業構造、メニューと食材仕入、特徴など、フードサービス産業（中食も含む）の基本的な知識を体系的に学修する。			
到達目標	(1) 食産業の中で外食産業のポジショニングを理解できる。 (2) 業種・業態、外食産業（中食も含む）の産業構造を理解できる。 (3) 外食企業のメニュー戦略と食材仕入の特徴や原則が理解できる。			
講義方法	講義			
授業時間外における予・復習等の指示	授業の最後にキーワードを提示し、次の時間の小テストでその確認を行う。			
成績評価の方法	平常点（主体的な授業参加度）（20％）、小テスト（10％）、定期試験（70％）			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	現代フードサービス論 外食産業の経営展開と食材調達 【参考図書】 外食産業論 【参考図書】	創成社 農林統計協会 農林統計協会	2,530円 2,750円 3,850円	978-7944-2461-7 4-541-03144-2 4-541-02042-4
履修上の注意	—			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	堀田 宗徳	外食・中食の範囲と飲食店の機能	—
2	同上	外食産業での業種・業態論と産業構造	小テストを実施する。
3	同上	外食産業の事業展開（店舗展開の基礎）	同上
4	同上	外食産業の競争構造（参入障壁、価格戦略の基礎など）	同上
5	同上	外食企業のメニュー戦略と食材仕入	同上
6	同上	中食産業の構造と戦略	同上
7	同上	外食産業の発展家庭（外食産業史）	同上
8	同上	消費者の外食・中食行動	同上

Syllabus（授業計画）用紙

科目名	ホスピタリティ論			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	後期	単位数	1単位
担当者氏名	安藤 竜	実務経験の内容	本科目の担当教員は、人材サービス会社にて就労支援講座の講師を務め、ビジネスにおいて必要とされるコミュニケーションやマナーに関する講演や教材開発の実績を有している。本科目では、これらの実務経験を活かして、様々な場で必要とされるホスピタリティについて解説等を行う。		
実務経験のある教員による授業科目（○/ー）	○				

講義概要

講義概要	近年、顧客満足（CS）の向上にホスピタリティを活用しようという動きが盛んになっている。しかしホスピタリティとは本来、お客様との関係においてのみ求められるものではなく、職場内や日常生活でも求められるものである。また、企業におけるコンプライアンスやハラスメント、メンタルヘルス等にも深く関係している。ホスピタリティを実践することでこれらの課題にどう向き合うかを考え理解することを目的とする。			
到達目標	ホスピタリティ精神とその実践事例を学び理解することで、自らが就業しサービスを実践する際の判断基準となる考え方を身につける。			
講義方法	主として講義による。必要に応じて視聴覚教材を使用する。			
授業時間外における予・復習等の指示	ホスピタリティはただ学ぶだけでなく実践して身につけるものである。ホスピタリティを日常生活の中で積極的に取り入れ実践をすること。また日常生活で感動したサービスを常に意識して記録しておくようにする。			
成績評価の方法	小テスト（30%）、定期試験（70%）			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	ホスピタリティ検定公式テキスト&問題集～2級・3級対応～（2020年度版）	経済法令研究会	1,760円	978-4-7668-3429-1
履修上の注意	—			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	安藤 竜	ホスピタリティの基本及びオリエンテーション	—
2	同上	ホスピタリティ実践のための考え方を学習する。	—
3	同上	ホスピタリティマナー サービスにおけるマナーについて学習する。	—
4	同上	ホスピタリティとコミュニケーション 効果的な聞き方・話し方を学習する。	—
5	同上	顧客満足とホスピタリティ 顧客の心理を考えた対応について学習する。	小テストを実施する。
6	同上	ホスピタリティの実践と職場環境。ホスピタリティは個人の努力だけでなく、職場環境・人間関係から生まれることを学習する。	—
7	同上	事例研究：フードサービス、ホテル・旅館の事例について学習する。	—
8	同上	ホスピタリティマインドの活用とまとめ	—

Syllabus（授業計画）用紙

科目名	調理学			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	後期	単位数	2単位
担当者氏名	相良 多喜子	実務経験の内容	—		
実務経験のある教員による授業科目（○/ー）	—				

講義概要

講義概要	<p>フードサービス産業の中でも、飲食店を中心とした外食産業や中食産業において、調理や調理補助を担当するキッチンスタッフは、調理の原理について、栄養面、安全面、嗜好面等から、科学的に理解するとともに、食品のもつ様々な情報について理解していることが求められる。</p> <p>本授業では、調理に使う食材の特徴、調理の基本操作、調理の目的や規模に応じた調理器具・設備等に関する知識を習得することを目的とする。また、食べ物と健康の関連を理解するために、主に「おいしさの評価」「調理の基礎」「食事設計」について学び、食べ物の特性を踏まえた食事設計および調理の役割を身につける。</p>			
到達目標	<p>(1) 食品の調理による物理的、科学的变化を説明できるようになる。</p> <p>(2) 食品の衛生面、栄養面、嗜好面を考慮して調理方法を考えることができ、実践できるようになる。</p>			
講義方法	講義			
授業時間外における予・復習等の指示	授業で学んだ用語の意味を理解し、復習する。			
成績評価の方法	レポート（40%）、定期試験（60%）			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	新版 調理学	建帛社	2,420円	978-4-7679-0645-4
履修上の注意	—			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	相良 多喜子	調理の意義について	—
2	同上	食べ物の美味しさについて	—
3	同上	加熱調理操作の原理	—
4	同上	非加熱調理操作の原理	—
5	同上	熱の伝わり方と効率的な加熱条件および調理操作の原理	—
6	同上	植物性食品の調理特性（1）米・小麦	—
7	同上	植物性食品の調理特性（2）いも類・豆類	—
8	同上	植物性食品の調理特性（3）野菜類・果物類	—
9	同上	植物性食品の調理特性（4）種実類・きのこ類・海藻類	—
10	同上	動物性食品の調理特性（1）食肉類	—
11	同上	動物性食品の調理特性（2）魚介類	—
12	同上	動物性食品の調理特性（3）鶏卵	—
13	同上	動物性食品の調理特性（4）牛乳・乳製品	—
14	同上	成分抽出素材、調味料の調理特性	—
15	同上	食事設計と献立作成の方法、まとめ	—

Syllabus (授業計画) 用紙

科目名	地域学概論			対象学部	フードサービスマネジメント学部
配当年次	1年次	開講期間	後期	単位数	2単位
担当者氏名	藪下 保弘	実務経験の内容	—		
実務経験のある教員による授業科目 (○/ー)	—				

講義概要

講義概要	<p>地域が活性化すると、人の往来が活発になり小さな経済が回り出す。その結果、地域には経済的なゆとりが生まれ、そこに生活を営む人々の暮らしにゆとりが生まれ、心も豊かになる。</p> <p>「地方の時代」と言われてひさしく、今この時点でも全国各地で多様な地域活性化活動が展開されている。</p> <p>本講義では、取り扱い範囲の広い「地域」を「歴史」「文化」「産業」に「情報」を加えた4つの視点からアプローチする。</p> <p>本講義は、地域系科目の導入科目として、次年度以降に開講される科目の選択に際して、ナビゲーターの役割を担う。</p>			
到達目標	地域活性化に関する事象を観察して、「持続可能な地域」を自分なりにイメージできるとともに、一般的な時事会話で用語を使いこなせるようになる。			
講義方法	講義			
授業時間外における予・復習等の指示	事前に配布する資料に目を通して授業に臨むこと。			
成績評価の方法	毎回の授業終了でふりかえりの時間を設け、「コメント・ペーパー」を記入する。また、授業期間中に「課題レポート」の提出を課す。 コメント・ペーパー (50%)、レポート (50%)			
テキスト等	書名	出版社名	定価	ISBN
	使用しない。	—	—	—
履修上の注意	—			

講義計画

NO	担当者	学修内容	備考
1	藪下 保弘	ガイダンス (履修の仕方、講義の構成、評価、講義内容の紹介、地域研究の方法)	—
2	同上	地域学の理論と方法論	—
3	同上	基礎理論(1) 人口属性と地理属性 (地域分析の基礎)	—
4	同上	基礎理論(2) 心理属性と行動属性 (地域分析の基礎)	—
5	同上	基礎理論(3) 付加価値額から知る地域産業の構造 (地域分析の基礎)	—
6	同上	基礎理論(4) 北陸の文化と歴史 (地域文化論)	—
7	同上	基礎理論(5) 北陸の地域産業の特色 (産業構造論)	—
8	同上	基礎理論(6) 観光資源発掘とマーケティング理論 (観光経営論)	—
9	同上	歴史都市金沢にみるシティ・プロモーション	—
10	同上	整備新幹線開業の功罪	—
11	同上	地域ブランド農産物の販売戦略	—
12	同上	農業の6次産業化とバリューチェーン	—
13	同上	地方創生と観光政策の本質	—
14	同上	地域の課題解決と企業の経済的価値 ～ソーシャル・イノベーション/共通価値の創造～	—
15	同上	まとめ 持続可能な地域の発展を目指して	—